一般国道７号　三川（みかわ）バイパス

三川バイパス
L=8.8km





凡　例		
事後評価対象箇所	供用区間	
高規格幹線道路	供用区間	
	事業中区間	
	基本計画及び予定路線区間	
地域高規格道路	供用区間	
	事業中区間	
	基本計画及び候補路線	
直轄国道		

一般国道７号　三川（みかわ）バイパス



一般国道７号　三川（みかわ）バイパス

【評価要件：事業完了後5年以内】

〇事業の目的

・円滑な交通の確保
・交通事故の低減
・沿道環境の改善

〇延　　長：　Ｌ＝８．８km

〇事 業 化：　平成元年度

〇工事着手：　平成４年度

〇供　　用：　平成15年度

現道区間の混雑が解消

交通混雑の緩和［横山地区］

整備前



整備後



整備区間の状況

バイパス供用後[青山地区]



事業費の増加理由

・事業費が当初計画１５５億円から実績２１８億円へと６３億円増加

〔主な事業費の増加理由〕

構造形式の見直し（低盛土→高盛土：
全線8．8kmのうち6．2km区間）

盛土に要する費用の増加・・・・・・・・・・・・40億円
交差箇所立体化に伴う函渠工増加・・・・12億円
地吹雪対策工の増加・・・・・・・・・・・・・・・・ 4億円
機能補償等に伴う側道の増加・・・・・・・・ 1億円
用地補償費（買収面積）の増加・・・・・・・・ 6億円

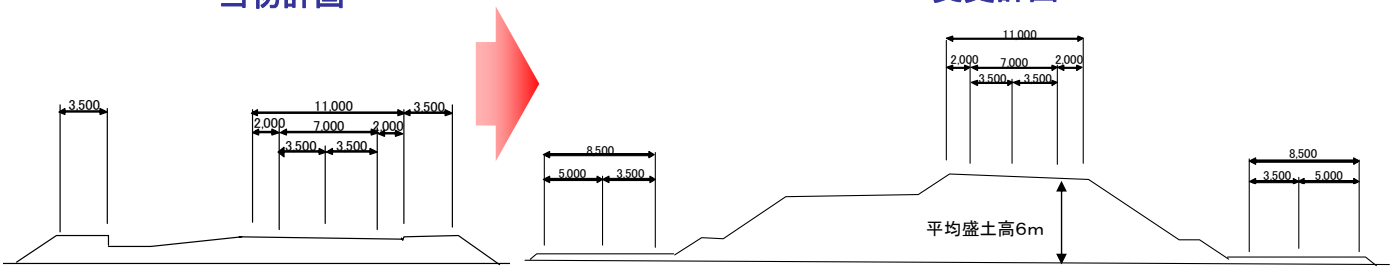


事業費の増加理由

構造変更区間（鶴岡市本田～東田川郡三川町大字猪子　L=６．２km）



構造変更区間横断図



事業の効果等

	計画時	実績
事業費	155億円	218億円
交通量	21,300台/日　(H17※)	17,608台/日　(H17)

※計画時のH17交通量については10次フレームの走行台キロの伸び率より算出

・事業の効果

	整備前		整備後
旅行速度向上	36.0km/h　(H11)	⇨	46.8km/h　(H17)
交通事故減少	42.3件/年　(H12～H14平均)		20.3件/年　(H16～H18平均)

・費用対効果分析結果（事後評価）

B/C ＝　6.3

今後の対応方針（案）

事業の効果が発現している。

・円滑な交通の確保

・交通事故の低減

・沿道環境の改善

当該事業については、改善措置及び今後の事後評価の必要性はない。